

松尾倶楽部の講演会「五島慶太」に出席しました

宮原 豊（9組）

11月9日（土）、松尾倶楽部の第172回例会において「鉄道王五島慶太の業績と令和の渋谷大開発」というタイトルで東京都市大学長特命広報ディレクター角田光男氏（共同通信OB）による講演会に、共に青木村出身の櫻田喜貢穂氏（7組）と一緒に参加しました。

五島慶太（旧姓小林）は、明治15年に青木村殿戸（とのど）に生まれ、明治33年に長野県尋常中学校上田支校（現、上田高校）を経て松本中学を卒業、その後東京高等師範（現、筑波大学）、東京帝国大学（現、東京大学）に学び、明治44年に農商務省に入省しました。大正2年に鉄道院に転属し、大正9年鉄道省を退官します。その後は目黒蒲田電鉄の設立（大正11年）、またよく知られている東京急行鉄道の社長（昭和17年）、会長（同27年）を歴任し、東急グループ創設者として沿線の都市開発などに貢献し、昭和34年に77歳で他界しました。



今回の角田氏による講演では、鉄道王としての業績と同様に教育支援に尽した五島慶太の数々の業績が紹介されました。東京工業大学（大岡山への移転）、慶応義塾大学（日吉台へのキャンパス誘致）、武蔵工業大学、亜細亜大学等への支援はよく知られていますが、当時としては先端的な試みである女子教育の場として「東横商業女学校」を開校するなど、剛腕鉄道王のイメージとは違う教育・人材育成分野の貢献について紹介され、今進められている令和の渋谷大開発が五島慶太の夢を継承する事業なのではないかと、約2時間にわたり熱く語られました。

五島慶太の生家は青木村から別所温泉に通ずる峠の最も高い場所にありますが、今年の8月14日（奇しくも慶太の59回目の命日）に落雷で焼失してしまいました。青木村では没後60年の顕彰運動を進めている中での突然の出来事に茫然としましたが、それを契機に東急グループの支援をいただきながら、「五島慶太未来創造館」の建設計画が急浮上し、去る10月3日に起工式が執り行われました。



2020年3月下旬の竣工、慶太の誕生日の4月18日オープンを目指して青木村図書館隣接地に建設中で、それとともに展示品として五島慶太関連の史資料の調査・収集が進められ、未来創造館の骨格が徐々に形成されております。例えば史料の中には五島慶太がしばしば投稿していた上田郷友會（きょうゆうかい）會報があり、そこには長野県人の子弟寮「千曲寮」の建設計画に五島慶太が深く関わっていたことが記録されています。この「五島慶太未来創造館」プロジェクトを担当する青木村商工観光移住課の中沢道彦課長と青木村図書館の青木貴子さんの二人が急遽この講演会に出席し、プロジェクトの概要を紹介させていただきました。

ところで、関東圏においては「上田高校関東同窓会」を空に伸びる一本の太い幹とすると、同期会、クラス会、運動部、文化部等々の親睦会はそれぞれが縦横に広がる枝葉であります。松尾倶楽部は48期同期会を源（もと）にするメンバー170~180名を擁する世代を超えた勉強会だそうです。65期は丸山暢久氏（4組）、塩川明男氏（6組）が会員だそうです。現在の代表幹事の白井透氏（60期）からメール通信で今までイベント等のご案内をいただきながら、今回私達はビジターとして初参加しました。あらかじめ用意された60席は満席、



このようなまじめな勉強会を年に何回も長年にわたり続けておられる諸先輩の熱意に敬意を表する次第であります。過去に開催された講演内容を見ると、若い人こそが聴講すべき知的（Intellectual）で、かつ仕事にも役立つ知識が豊富（Intelligent）なものが多いと思いました。

写真（左から）：講師の角田氏、東京青木会元会長の高橋福幸氏（58期、松尾倶楽部会員）、櫻田氏、青木村から青木さんと中沢氏（82期）、そして宮原（筆者）です。

（2019年11月10日）